

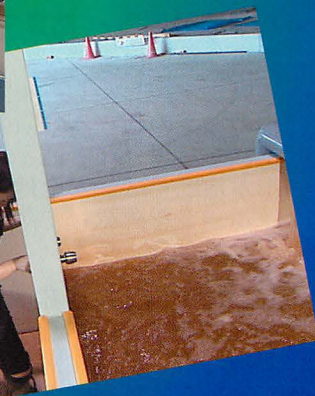
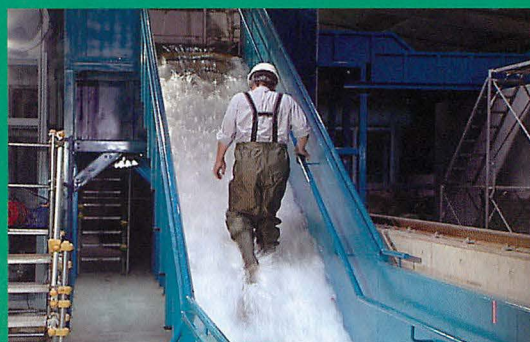
経験したことのない集中豪雨が
いつ来てもおかしくない
危険な時代になったのです。

温暖化時代の豪雨災害

その時 あなたは身を守れるか？

監修 鹿児島大学 理学部 地球環境科学科
准教授 井村隆介

協力 京都大学防災研究所



上映時間 20 分
ビデオ・DVD 63.000 円

制作意図

近年、温暖化現象によるとも考えられる局地的な集中豪雨が頻繁に発生しています。経験したことのない集中豪雨がいつ来てもおかしくない、危険な時代になったのです。また、1999年7月の集中豪雨により、地下室浸水による死亡事故という新たな形態の災害が発生しました。都市化の進行が著しい現代、より真剣に、都市型災害への対策が必要とされているのです。では、そうした災害から身を守るためにはどうすればいいのでしょうか。

作品の内容

□自分が住んでいる場所にどのような災害が起こりうるか予測し、対策を考える。

扇状地・河川地域・急傾斜地・山間地域。こうした、日本の何処にでもある地形が、災害の危険を多くはらんでいるのです。幾度となく豪雨災害に遭っている鹿児島県垂水市市木地区を例に、実際の災害と状況と対策を考察します。

□自主防災組織

自主防災組織の利点は、どの家が高齢者世帯であり、どの家に身体の不自由な住民が居かなどが把握できるよう、地域ごとに組織だてされていることです。その家の状況に合わせた早めの避難を勧めることができるのです。

□日頃の備え・防災マップの作成

防災マップに避難ルートと危険箇所が書き込まれています。しかし、実際の避難の時、土砂崩れや川の氾濫の起きる危険のある場所が、避難ルート上にある場合など、どうすればいいのでしょうか。市木地区では、安全地帯を地域で決め、確実な避難ルートを確認してから避難することを、話し合いました。

□日頃の備え・避難訓練

避難訓練は、毎年行われています。訓練には、地域住民のほとんどが参加します。こうした訓練が、地域住民の防災への意識を高めているのです。気象情報に注意し、危険が予測される場合は早めの避難を考えましょう。避難勧告や避難指示には恒に注意しましょう。

□早めの避難

平成19年7月、台風4号の影響で起きた、垂水市の牛根での土砂崩れ現場の様態です。牛根郵便局を含む住宅5棟が全壊しました。しかし、避難勧告に基づいて全員が避難していて犠牲者はありませんでした。まさに、早めの避難が功を奏したのです。

□河川の氾濫

集中豪雨は、浸水だけでなく、土砂崩れや家屋の崩壊など、多大な被害をもたらします。その危険を予測することはできなかったのでしょうか。降雨実験装置を使って、雨の強さと実際の豪雨被害を比較します。今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫だろうという油断が、危険を招きます。気象状況は年々変化しています。大雨が降ってきたら、高いところへ避難し、身の安全を確保しましょう。増水状況を見に行っておぼれる人が絶えません。危険箇所には近づかないようにしましょう。

□都市型水害

日本では、河川沿いに民家が集中し、氾濫想定区域内に、人口の約50%と資産の約75%が集中しています。都市部での水害は大きな被害をもたらします。

※ドア模型による実験

都市部では、地面の大部分が建物やアスファルトの道路で覆われているため、雨水が地下にしみ込みにくく、大雨が降った場合、大量の雨水が地下施設に流れ込む危険があります。地下空間で浸水時、一番危険な事は、静水圧で扉の開閉が出来なくなる事です。実物大のドア模型による実験でその危険性を検証します。

※階段模型による実験

水害時、地下施設に階段から流れ込む水の量や勢いは想像以上のものです。そこで、高さ3m、幅1mの階段で、地上が洪水氾濫していることを想定して、地下から地上までどのように逃げるか実験しました。

□まとめ

最近では、従来の記録を大きく上回る降雨が発生しています。今度も大丈夫だろうという慣れを持っていませんか？。警報などの、外部からの情報を過信していませんか？。防災に大切なのは、自分で危険を知り、自分の命は自分で守る心構えなのです。

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101